

# 電子の世界であいま しよー

青いカンテラ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

九頭竜クスリユウ 哀歌アイカはある日、いま流行りのGBNを始めようと思い立つ。

GPDでボロ負けしたのが切っ掛けでガンプラバトルから離れていた少女はもう一度ガンプラバトルをするために、ガンプラが壊れることのない理想郷へと飛び込む。

「クハハハハ！ さあ、我にひれ伏せ！」

「ぜんえーはく、私にお任せだよ〜」

「硝煙と火薬のにおいで・・・むせる」

そこで出会うのは個性的なダイバーたち。

これはGBN存続の危機だとか、遠い異星の戦いだとか、そういったものとは無縁な

少女と愉快的仲間たちが送るGBNライフを日記帳へと書き記す物語。

◆フリー◆本作に登場するキャラ、ガンプラ、フォース、クリエイトミッションなどの設定は、ハーメルン内の「ビルドシリーズ」系二次創作に限り良識の範囲内で自由に使用して頂いて構いません。（読者参加型企画や他作品からお借りしているものは除く）◆素材◆

# 目次

その1：始めの始め。	1
その2：湿気ボンバー	6

## その1：始めの始め。

【〇月×日／晴】

思い立ったが吉日、という言葉がある。物事というのはやろうと思つたその日に初めてしまえとかなんとか、なんだかんだそういう意味だったような気がする。

違うかもしれないが、そういうことにはしておこう。ふふふ、言葉とは生き物でありその内包する意味もまた時代と共に移り変わっていくものだからな。そして言葉の意味を変えていくのは次世代を担う若人なのだ。

とまあ、そんなわけだ。

私は、九頭竜哀歌はじーびーえぬというゲームを始めたいと思つた次第なのである。

TVでCMバンバン流してると、クラスのみんなもなんか楽しそーにしてると、何ならうちの姉ちゃんもハマっているとかなれば、気にならないわけがなく。

そしてわたしはししゆんきとくゆうのあれだとか、流行に乗って周りに迎合したくないとか言ってるひねくれればつちだとかでもないので普通に興味がある。興味自体はあるのだが、じーびーえぬを遊ぶ上で不可欠なガンブラというものにはあまりいい思い出がない。

自分の日記で、自分に対してもつたいぶるのも変な話なので、それについてはさらりと簡潔に書くけれど。

まあ、よくある話と言えばよくある話。じーびーえぬが流行る前に流行っていたガンプラバトルシミュレーター、通称GPD。そのGPDでひどい目にあった。それだけの話。

【〇月×日／晴】

何かおススメのガンプラってありますか？

その言葉を試合開始のゴング代わりにして始まるのは、おススメのガンプラをおススメするバトルだ。

まずガンプラといってもその数は星の数ほど・・・は言いすぎだとしても、何百何千と種類があつて、同じガンプラでも新旧があつて、さらに古くなるとパーツの色分けはされてないわ間接は固定されてるわそもそも組むのに接着剤が必要だったりする。

とかく種類が多いというのはそれだけ、ガンプラには長い歴史があるということに他ならない。GBNを始めるにあたって、まず用意するのはガンプラだ！と意気揚々とガンダムベースに来たのはいい。

けれどわたしを出迎えたのは、ワゴンや棚に山と積まれ多種多様とはつまりこういう

ことだとばかりに種類豊富なガンプラの箱。箱。箱。ガンダムといえばSEEDとダブルオーくらいしか知らないわたしには、それ以外は同じに見える。

オウフ・・・サブカルチャーを知らない一般人の気持ちがあほんの少しわかった気がするぜ・・・。ほんの少しだけね！

それで、まあ、どれがいいとか悪いとかよくわからねえな困った、となったわたしはガンダム談義に花を咲かせていた見るからに背景モブみたいな（超絶失礼）オトコノコ二人に最初の質問を投げかけた次第なのである。

その結果は書かなくてもわかるだろう。

戦争、戦争である。片ややたらとガンダムをブッシュしてくるひよろい眼鏡くん。片やザクやゲイツといった量産機を押しってくる前髪で目元が隠れている中肉中背なメカクレくん。

二人は次第にヒートアップしていき、ついにはわたしを置いてけぼりにして危険な領域へと突入する・・・!!

ガンプラバトルで決着をつけようぜ！ といってどこかに行ってしまった。ドウイウコトナノ。

まったく、わたしという美少女を置いて自分たちの世界に入り込んでいってしまうとはなんてやつらだ・・・。

【〇月×日／曇り】

鉄血のオルフェンズ、という作品がある。

ガンダムシリーズとしては新しいほうの作品で、なんとこの作品、MS戦では必ずと言っていいほどに出てくるビーム兵器がほとんど出てこないのである。

それというのも、オルフェンズの世界ではMSや戦艦といった兵器には装甲に特殊なコーティングが施されていて、ビーム兵器を弾くらしい。そのせいで効果の薄いビーム兵器はいつしか廃れていき実弾や実体剣といった物理攻撃が主流になったのだとか。

当たれば即死なビーム兵器がないからか、敵も味方もやたらと固く、実弾や実体剣や鈍器で殴り合うというのはなんとも新鮮で、わたしはオルフェンズのMSを使いたいと思いはじめていた。

実弾、いいよね。ビームが強いから押され気味だけど、高火力になればなるほどエネルギーをドカ食いするビーム兵器と違って、実弾兵器はエネルギー消費が少ない。実際たくさん積めばたくさん撃てるのだ。実弾兵器のパワーはすばらしいぞ。

そんなわけで、ガンダムベースで買ってきましたわたしのガンプラ！鉄血のオルフェンズに登場するテイワズ？とかいう組織の量産機、漏影(ろうえいと読むらしい。一部のMSの名前が漢字表記なのもオルフェンズならではっぽい。カッコいい)。



それと、ガンダムベースの入り口るところでショーケースに入れられてた小さなオナノコ（えるだいばー？ とかなんとか言ってた。よくわからん）にススメられたへびーあーむずいーげる装備？ とかいうのも買っておいた。

わたしはガンプラには詳しくないからよくわからないが、カワイイオナノコに買って損はないですよ、と言われて買わないという選択肢はないのだ。例えばそれが営業スマイルなのだとしてもな・・・!!

わたしはカワイイオナノコの笑顔にめっちゃ弱いのである。仕方ないね。

・・・あ、しまったニッパー買うのを忘れた。

## その2：湿気ボンバー

〔〇月×日／雨〕

雨の日は嫌いだ。

湿気でわたしの髪がボンバーするから。

姉ちゃんは塗装がどうのこうのとかぶつぶつ言ってたけどネ。雨の日と湿気が多い日というのはどこも大変なのだなあ。

ガンプラ買ったはいいいけどニツパー買い忘れていた件、だけれど姉ちゃんのお下がりをもらい一応の解決を見た。正直あの人に貸し借り作るのイヤなんだけれど・・・くれるというのなら病気以外は貰うのがわたしなので貰っておいた。

ガンプラ二個買ったことで財布ポイントが尽き掛けていたのでな・・・。背に腹は代えられぬというやつだ。そしてガンプラ一個を組むにはニツパーがあればそれでいいが、より完成度を高めるためには他にもやすりやらスジボリをするための道具やらガンダムメーカーやらエアブラシやらが必要らしい。

・・・うん。普通にわたしの財布ポイントを超過しているな。社会人として懐に余裕のある姉ちゃんとは違って、わたしはしががない学生なのだ。その資金力には大きな差が

あるのだ。

だが、世はまさに大ガンプラブーム時代。ガンプラとその製作用の道具を専門に扱うガンダムベースにはなんと、製作ブースが併設されている。いくらかの利用料こそ発生するものの、置いてある道具はすべて使い放題。さらにはエアブラシで塗装もできるなど至れり尽くせり。え、これが追加料金なしで使い放題なんですか!?! さすがは天下の財団B太っ腹あ!

まあ、今日は雨が降ってるから家で漏影組むんですけどね。

【〇月×日／曇り】

曇りの日はいいぞ。分厚い雲から太陽光からわたしを守ってくれるからな。

影に生きる日陰者であるわたしは、太陽の光を長時間浴びると灰になってしまう。なので曇り空というのは好きだ。ただし梅雨、てめえはダメだ。

パチパチと組んでいた漏影ではあるが、なんとか組み上がった。本当にただ組んでシールはつつけただけではあるけれど、わたしが作ったわたしのガンプラである。塗装も改造も何もしてないわたしの漏影は姉ちゃんいわく素組? というらしい。

素組のガンプラはGBNだと本当に最低限の性能しかないとのことだが、塗装も改造も追々ということ。まずは漏影が出来上がったことを喜び、そしてクラスの友人に自

慢するでしょう。

【〇月×日／晴】

わたしには友人が一人いる。のんびりとしてのほほんとしたやつである。いつも眠たげな目をしているそやつはふわふわほわほわとした空気で、人をダメにするクツションが服を着て歩いているような感じである。長い袖が余った制服を着ているというのも、彼女のゆるふわ感に一役買っている気がする。余り袖はいいものだ……。

名前はのほほん。本名は別にあるが、基本的には周囲からのほほんさんと呼ばれているのでのほほんでいいだろう。席がちょうど前と後ろということもあり、休み時間となればよく話しをする程度には仲良しさんである。

机の上に置いた腕に頭を乗せて上目遣いにこちらを見るのほほんは実際カワイイ。思わずもちもちのほつぺをむにむにしたり、触り心地のいい亜麻色の髪を手櫛で梳いたりしたくなるくらいにはカワイイ。トニカクカワイイので嫁に貰いたいくらいだ。

と、のほほんについて書いていると長くなりそうなので団長もとい断腸の思いでもってして切り上げるが、意外なことにはのほほんもガンブラを嗜んでいるらしい。まさかの友人がガンブラ女子……！

やはり長い袖でニッパを握ってパチパチやっているのだろうか。気になって聞い

てみたところ、ガンプラを組むときはさすがに袖はまくるか短いものに着替えるらしい。まあそれもそうか。細かいパーツとか袖越しに持てないしな。

そして、そんなのほほんにわたしの組み上げた漏影を見せたところ「すごい、よくできるよ」との言葉を頂いた。ふふふ、そうだろうそうだろう。何せGBNで遊ぶために頑張つて作ったガンプラだからな。もつと褒めてもいいんだぞ？

のほほん「ところであいちゃん。この子は色変えたりつて、しないのー？」

わたし「む？ 色変えということは塗装か。いまのところはこのままでもいいかと思っているが。エアブラシの使い方もよくわからないのでな」

のほほん「んー、それならあ、私が教えてあげよーか？ あいちゃんが良ければだけどねえ」

わたし「教えてくれるというのならありがたいな。これからは塗装の師、のほほんセンサーと呼ばせてもらおう」

のほほん「うん、それはエンリョしとくね」

わたし「なん・・・だと・・・」

エンリョされてしまった。いつもにこにこほわほわとしているのほほんだが、イヤなことはイヤとけっこうはつきりと口にする。そう、彼女は正しくノーといえるのほほんなのである。

その後、ガンダムベースで落ち合う日取りを話し合って休み時間は終わった。午後の授業に配置される数学というのはどうしてこう、睡魔を誘うのだろうか。

昼食を食べてで腹が膨れているからか、教壇に立つ数学教師の爺様の棒読みな声がそうせるのか、はたまたその両方なのか……。疑問は尽きず、睡魔には勝てない……。のだ……。スヤア（w）